



XRを扱うクリエイターやエンジニアの 架け橋となる施設「NEUU」に 導入されたHPワークステーション

小田急電鉄株式会社

目的

- XRをスムーズに体験できる環境構築

アプローチ

- HPワークステーションの導入

システムの効果

- VR酔いの心配がないハイパフォーマンス
- XRコンテンツの高い再現性
- 長時間稼働でも安心の高可用性

ビジネスへの効果

- 施設の共有リソースの充実
- 開発、コラボレーションの高効率化
- ワークステーションの利用促進

VR や AR などの仮想技術はあらゆる業界にとって期待の大きいテクノロジーだ。XR と総称されるこのテクノロジーを活用することで、人々の生活がより豊かになるだけでなく、企業にとっても付加価値の高いサービスを生み出すことが可能となる。一方で、いまだに身近になっている印象はなく、開発や作品づくりに携わりたいと考える若いエンジニアやクリエイターにとっては数居の高いジャンルでもあることも事実だ。今回はそんな課題を解決するために生まれた施設「NEUU」と、そこへ導入された HP ワークステーションについて話を伺ってきたので紹介しよう。



NEUU (<https://neuu.jp/>) 東京都新宿区西新宿 1-5-11 新宿三葉ビル 1階 9時～21時(定休日:火曜) ※利用料金などはホームページ参照



NEUU
岡本 享大氏



小田急電鉄株式会社
まちづくり事業本部
新宿プロジェクト推進部
坂田 和也氏

企業にとっても期待が大きい XR

小田急電鉄は神奈川県を中心に鉄道事業や不動産など多様なビジネスを展開する大手私鉄企業だ。小田急グループの中核を担っている組織であり、新宿から小田原、箱根湯本、さらには多摩地区、江の島などを結ぶ各路線には同社や同グループが提供する不動産やスーパーマーケット、百貨店、ホテルやレストランといった施設やサービスが展開され、そこに住まう多くの人々の豊かな生活を支えている。

「小田急電鉄は沿線に様々なアセットを持っています。XR は現実世界をアップデートするための技術だと考えているので、この技術を活用した新しいプロジェクトを立ち上げていきたいという狙いから、『NEUU』設立の構想が始まりました」と語る岡本氏。沿線を中心に幅広いサービスを展開する同社が次の施策として XR を活用した新しいビジネスの創出を考えるのは自然な流れでもある。

「一方で、XR クリエイターだけでなく、この分野に興味のあるアーティストやエンジニアにまずはこの技術を知ってもらいたいという思いもあります。NUEE という施設を立ち上げたのも、ここで何をしているのか、どんなことができるのかをまずは広く知ってもらい、XR 技術の敷居を下げ、すそ野を広げる役目があると考えています」と坂田氏は言葉を続ける。

彼らがいる『NEUU (ニュー)』は、小田急電鉄の拠点のひとつでもある東京都新宿区に新設された XR をテーマとした常設施設になる。ここでは最新の VR 映画や AR コンテンツなどが体験できるほか、そこに設置してある VR ゴーグル、ワークステーションなどの必要な設備を利用することも可能だ。

「この施設には体験コーナーがあり、4名同時に XR コンテンツを利用することができます。また隣にはワークスペースがあり、ここでは XR クリエイターやエンジニアが自由に交流し、新たな表現を創出することも可能です」と岡本氏が語るように、NEUU は XR コンテンツに関わる、あるいは楽しみたいというユーザーが一堂に会することができる場所としての機能を持っているのが特長となっている。

XR コンテンツをスムーズに再現

NEUU は 2022 年 11 月にオープンすると同時に多くのクリエイターやエンジニアが訪れ、すでに好評を得ている。「もっとも大切なのは最先端のテクノロジーを使って何を表現するかだと思います。XR クリエイターはまだまだ少ないのが現状ですが、他の分野で活躍しているユーザーの中にもこの技術と相性が良い人は必ずいると考えています。そうした人々をひとつにまとめ、一緒に取り組むことができれば相乗効果でより高い付加価値を持ったコンテンツが出来上がっていくと思っています」と岡本氏は語る。

「すでに来られた方からも、今までこのような施設は無かったという感想をたくさんいただいています。さらに、ここに来れば最先端の環境で XR を再現することができる利便性も認知していただいています。こうした環境があれば、創作意欲はすぐに形にできますし、良い出会いもあると思います。点と点だった彼らが、NEUU を利用することで一つのつながりを持つことができれば、確実に技術は前進していくと期待しています」と坂田氏。

様々な方面で日本の XR 技術の発展の中心としての期待が大きい NEUU。そこに採用されてい



NEUU に導入された
HP Z2 Tower G9 Workstation と
HP OMEN 45L



大規模な複数の 3D ワークフローの同時実行、
4K + 映像の編集、ゲーム開発、ソフトウェア
開発におすすめします
https://jp.ext.hp.com/prod/workstations/z2_tower_g9/



VR コンテンツへの没入感を高める
HP Reverb G2 VR Headset

るワークステーションが HP Z2 Tower G9 Workstation となる。基本的に第 12 世代インテル® Core™ i9 プロセッサ、グラフィックスには NVIDIA A4500、64GB メモリなどのスペックで、XR コンテンツの開発や再現をサポートしている。「常設しているのはこのワークステーションが 3 台、それに HP のゲーミング PC [OMEN 45L] を導入しています。それに加え、HP の VR ゴーグル [HP Reverb G2 VR Headset] も導入済みです」と岡本氏は語る。

VR の開発や再現に必須のワークステーションにはどのような要件があるのか、岡本氏に伺ってみると、「VR コンテンツの中には再生するにもパフォーマンスが必要なものもあります。NEUU では、海外の VR 映画なども含めて広く来場いただいた方に体験していただきたいので、自ずとハイスペックな環境を整えておく必要があるのです。その点、HP Z2 Tower G9 Workstation は重たいソフトウェアでもスムーズに動作しますし、とても快適です」という。

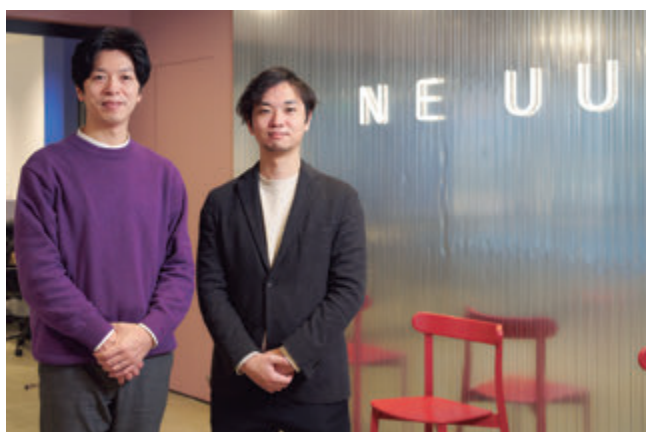
また、単に再生するだけなら、もっと低いスペックの PC などでも可能となるが、VR 画面でコマ落ちが頻繁に発生すると、視界不良に体調の悪化、いわゆる「VR 酔い」が発生しやすくなるという問題がある。「XR コンテンツでは特にグラフィックスの性能が求められます。グラフィックスが非力だとどうしても処理落ちが発生して VR 酔いも出やすくなります。例えばそのようなコンピューターで始めて VR を体験された方が、VR 酔いを感じてしまえばもう一度見たいと思わないでしょう。そういったことを避けるためにも、NEUU に設置するワークステーションにはなるべく良いスペックを持たせることにしました。これは VR ゴーグルにも言えることで、解像度やリフレッシュレートが低いと同じく VR 酔いがしやすくなります。その点 HP Reverb G2 VR Headset は映像も美しく、ハイフレーム率であらゆるコンテンツをなめらかに再現しています」と岡本氏はいう。

より多くの人々に 使ってもらえる施設へ

NEUU が HP を指定した理由として信頼性とサポート力もあったという岡本氏。「コンテンツそのものが長時間ある場合もありますし、混雑時には連続して何人もの人に映像をお届けする必要があります。例えば VR 映画の中には何らかの原因で途中で再生がストップした場合、その場所から再生できず、最初から見直さないといけないものもあります。ですから、コンピューターの信頼性と、万が一のときのサポートは必須なのです」(岡本氏)。

これまで、不具合が起きてサポートへ電話対応を求めた際に、ソフトウェア側の仕様が原因であったことが分かった事例がいくつかあるのみで、ハードウェアが起因するトラブルはないという。「動きが不自然だったのでサポートに電話したところ、親切に状況を調べていただきました。その結果、ワークステーションではなく、ソフトウェアの exe ファイルが原因であることが分かりました。その際もとても親切に対応いただいたのが印象的でした」と岡本氏。

「私たち小田急電鉄には『お客様に上質な感動を提供していく』という理念があります。小田急電鉄の様々なサービスをご利用のお客様に対してはもちろんですが、NEUU を使う方々にも、その理念を感じていただけるようなサービスをご提供していきたいですね」と語る坂田氏。「一人でも多くの方に XR という技術があることとその可能性を知っていただきたいですね。そのうえでこの領域にチャレンジしてくれる人が増えるとさらにうれしいです。そういった機会をご提供できる場として、これからも NEUU としての活動を続けたいと思います」と岡本氏は最後に語ってくれた。HP はこれからも小田急電鉄と NEUU をサポートしていく。



記事を共有する

